

「タバコにお金をかける価値はあるでしょうか」

前回、「ワーキングプア (working poor)”や生活保護を受けている人が増えている厳しい世の中にあつて、「百害あって一利なし」のタバコにお金をかけるなんて、どうなの?という問いかけをしました。

でも、厳しい状況は日本だけではありません。下の写真は、日本ユニセフ協会の HP に掲載されている画像です。



2010年1月、22万人の命を奪ったハイチ地震。ユニセフは地震発生直後から、医薬品の提供や教育の再開支援、家族を失った子どもたちへの心のケアなどを行っています。しかし、震災後もハリケーンやコレラの流行など多くの困難に見舞われ、復興にはさらなる支援が必要です。



これまで何度も大規模な干ばつに見舞われているケニア、ソマリア、エチオピアなどの「アフリカの角」地域で今年、過去60年間で最悪の干ばつが発生。大規模な食糧難により、2人に1人が深刻な栄養不良に陥っている地域もあります。このままではさらに多くの子どもたち命と未来が奪われる恐れがあります。



2010年夏、国内史上最悪な洪水に見舞われたパキスタン。国土の1/5が浸水し、2000万人が被災しました。ユニセフは安全な飲み水の提供や感染症を防ぐための予防接種などを実施してきました。しかし被害の規模は甚大で、今も多くの子どもたちが下痢性の病気や栄養不良で命の危機にあります。



ダルフルは、世界で最も深刻な人道危機にさらされている地域の一つであるとされています。多くの人々が不安と恐怖の中で毎日過ごしています。女性と子どもたちは、長期にわたる武力紛争の影響を最も受けているのです。



アフガニスタンの多くの地域で頻発する武力衝突と政情不安。その影響を受けている最も弱い立場にあるこうした子どもたちです。

この子どもたちの命を守る方法として、ユニセフでは次のような支援を呼びかけています。

月々2000円の支援が、1年間で子どもの栄養不良を改善するペースト状の栄養補助食749袋に。
月々5000円の支援が、1年間で、学校で使うえんぴつとノート 1348人分に。

これに対して、残念なことに日本では、タバコに手を出してしまう中高生が、少なくありません。せめて皆さんは「生きるために、タバコは必要ない」ことを分かって下さい。

産業デザイン科 奥田 恭久